



進取

令和4年7月13日発行

阿久根市立阿久根小学校
29学級 児童数435人

もうすぐ、夏休み 家族や故郷を感じる体験を！

校長 深川 光久

早いもので、あとわずかで1学期も終わりとなります。子供たちは、大きな怪我もなく無事に1学期を終えられそうな状況です。今年も新型コロナウイルス感染症で悩まされていますが、なんとかこうして1学期終了という節目を迎えられそうなのは、保護者の皆様の御理解とご協力のおかげです。有り難うございます。

蜜柑色の夏休み

8時6分のディーゼル汽車に乗って
蜜柑のおばあちゃんの笑顔に会いに行こう
着替えは入れました 宿題も持ちました
柱の傷跡 1年ぶりの背比べ
窓を少し開けてみたら
走る風は真夏の匂いですね
fu uh uh 太陽が大きかった
fu uh uh 蜜柑色の夏休みです

ミンミン蝉の声 クワガタにカブトムシ
冷たいサイダーとまん丸猫が待っている。
窓の外はだんだん畑
光る海は ほら もうすぐですね。
fu uh uh 青い空 雲の峰
fu uh uh ぼくだけの夏の冒険
ひとつふたつ トンネル抜けて
やっぱり夏は キラキラ 光っていました
fu uh uh 元気かな 元気かな
fu uh uh おばあちゃんのあったかい笑顔
fu uh uh 太陽が大きかった
fu uh uh 蜜柑色の夏休みです



これは、俳優で歌手の福山雅治さんの「蜜柑色の夏休み」という歌の歌詞です。福山さんが子どもの頃、夏休みに母方のおばあちゃんの家に行く時のことを歌ったものです。この曲を聴くと同じ経験をしていなくても、どこか子供のころの温かく懐かしい夏休みの風景が思い出されます。そして、ボンタンを初めとする柑橘類の栽培が昔から盛んで、海のある阿久根にもぴったりの歌詞だなと思います。

「夏休み」という言葉から思いつく景色や匂い、家族の思い出、地域のお祭りの思い出などが豊富にあることが、子供たちのこれからの人生を豊かにし、想像力の原点となります。平日はなかなか難しいかもしれませんが、家族と一緒にスイカを食べて「おいしいね。」と笑ったり、祖父母の家を訪ね、その笑顔に迎えられるたり、暑い中に稲の収穫などの農作業の手伝いの大変さを感じながらも夜の収穫祝いをみんなで喜んだり、それぞれの家庭の日常の中でできる素敵な家族の思い出をつくってください。子供たちが、大人になって素敵な阿久根の思い出を、自慢そうに話せるといいですね。



また、ゲームや動画三昧で生活リズムが大きく崩れてしまうと、2学期の不登校や登校しぶりにつながり、元の生活に戻すことがとても困難になります。そして、2学期以降の家族の生活も大きく変わってしまいます。間違っても、1日中クーラーの中で長時間のネットゲームだけの日々にならないように、考えてあげてください。家族での体験や読書などを要所要所に入れ、「することがあること」がネット依存を防ぎます。

